



道徳の授業で「特に大切にしたいこと」 「新たに気付かせたいこと」は何ですか？

今年度はたくさんの道徳の授業を参観させていただきました。明確な指導観をもち、価値理解を基に自己の生き方についての考えを深めることを意識した授業が多く見られました。しかし、子供たちの中に葛藤が生じにくく、ねらいの達成にもう一步踏み込めていない場面も見受けられました。授業構想通りの中心発問だけでは、登場人物の心情理解のみに偏った形式的な指導に陥りやすいこともあります。そこで、吾妻教育事務所ホームページに掲載中の「道徳科 構想メモ」を授業づくりに活用するポイントを2つ示しますので、参考にしてください。

ポイント1

授業づくりの手順を①本時のねらい→②ゴールの姿→③中心発問の順にする

道徳の授業づくり 【背番号10】 構想メモ

◎価値観… 解説を基に、自分の言葉でねらいとする道徳的価値等を記述する

感謝の心は、他者が自分のことを大切に思ってくれていることに触れ、相手の行為をいわば「心の贈り物」としてありがたいと感じたときに起こる人間としての心の在り方である。人々の善意や支えにより、日々の生活が成り立ち、現在の自分があることを踏まえ、それに対する感動や喜びが自ずと感謝の心となって、自分の心から出てくる。感謝の心は、相手の心にも伝わり、相手の心を自覚させる。大切なことである。

◎児童生徒観… わらいたいとする道徳的価値に対する実態を記す

◎教材観… 場面：背番号10の中心発問：「どの場面でも感謝を」

★ゴールの姿（価値理解+自己の生き方について考えを深めたい姿）

今の自分から感謝を

「一貫性のある授業の骨格」が完成します。

本時のねらい（価値観）

①本時のねらい（価値観）本時で扱う内容項目について授業者が「特に大切にしたいこと」「新たに気付かせたいこと」を明らかにする
中心とする道徳性に着目して「本時のねらい」を設定する

中心発問（教材観）

③中心発問（教材観）本時のゴールの姿に導くためには「どの場面で」「何について発問」すればよいのか考える

ゴールの姿（児童生徒観）

②ゴールの姿（児童生徒観）本時の授業で子供たちに「何を考えて欲しいか」「何に気付いて欲しいか」子供の姿で考える

ポイント2

子供の考えを道徳性のレベル毎に想定→一人一人の考えを深めるための支援を用意

具体化：中心発問に対する子どもの考えを道徳性の高いA～低いCまでの3パターンを予想する

A 背番号を付けて、拍手までもらえて、気持ちよく、自分から感謝の言葉を言っている。

B 認めてくれてありがとう。野球への思いに気付かせてくれてありがとう。（感謝の気持ちだけにとどまっている考え方）

C キャプテンとして、頑張ったかがあった。（自分中心の考え方）

Aが出ない場合（目的と手立て）

Cへの支援（目的と手立て）

・「どうして監督に選ばれたか」「僕が背番号をもらおうと、少なくなるのに拍手されたか」を問い掛け、Aのよう付けるようにする。
※（うなずきや表情の変化を見逃さない）

子供たちに多面的・多角的に考えさせたり、建前や、取り繕った発言（思考）に揺さぶりをかけたりして、考えを深めることができます。

具体化(ABC)

補助発問・支援

具体化のABCは中心発問に対する児童生徒の考えをレベル毎に想定し、記述するものです。

一人一人の考えを深めるために子供の発言を想定し、レベル毎にどのような補助発問や支援をするのか考えておく必要があります。

道徳科の評価について

「本時のねらい」には中心とする道徳性（～道徳的心情を養うなど）を設定しますが、道徳性そのものの評価はしません。学習状況及び道徳性に係る成長の様子を評価するために、本時の学習活動の中で、以下の2点を重視しましょう。

- 一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させている
- 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めている

子供たちの「こんな姿を見たい！」というイメージを授業者自身が思い描き、その姿が見られるような学習活動を取り入れましょう。

- 例) 「自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしている」
- 例) 「登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしている」